

2024 年 6 月 12 日 8223036 栗山淳 講義担当者：小柳先生

概要

大学は社会に出るための準備である。社会に出たら答えのないものにどう取り組むかが重要。大学生の本務は学術的, 人間的に成長することである。国際的に活躍でき, 自ら判断し, 行動できる, 物事を論理的に考え, 説明できる, 周囲と強調して発展できる, 専門知識を備えている, 最後までやり遂げる, 忍耐力がある, このようなことを大学生のうちに身に着ける必要がある。しかし人には向き不向きがあり, 習得までの時間は人それぞれ, 成果が出ないときもある。苦しい時を乗り越えて初めて本質的な成長, 本気で取り組まない限り何も得られない。知識よりも知恵を身に付けるのではなく, 知識から知恵を身に付けるようにする。大学生は成績を上げることよりも勉強をして力をつけることを意識する。小柳研究室では企業との共同研究がほとんどである。例えば, 電気自動車の燃料電池の CFRP タンクの開発や超高高度 CFRP ロープの開発, 航空機 CFRP の研究, 大気圏再突入の熱防御材の開発などがある。

感想

大学生活は単なる知識の習得の場ではなく、自ら考え、行動する力を養う場であることを再認識しました。特に、論理的に考え、説明する能力や、周囲と協調して発展できる力は、どのような職業においても必須のスキルです。これらの能力を大学生のうちに身につけることが、将来の成功に直結するのだと感じました。また、人間的成長の重要性についても共感しました。大学生としての本務は、単に学術的な成長だけでなく、人間的な成長も含まれているという点は大学生で成績などを気にしすぎている自分のことを振り返る良い機会になりました。最後に、小柳研究室での企業との共同研究の具体例を聞いて、実践的な研究の重要性を感じました。電気自動車の燃料電池の CFRP タンクの開発や航空機 CFRP の研究など、実際の社会課題に取り組むことで、理論と実践を結びつけることができるのは非常に貴重な経験であり、このような研究を通じて、現実の問題に対する解決策を見出す力を養うことができるのは、大きな魅力であると感じました。

この講義を聞いて、大学生活の意味や目的について深く考えさせられました。これからの大学生活において、学問と人間性の両面で成長し、社会に貢献できる人物になるための努力を惜しまないようにしたいと思います。